

中学校区における子ども像
「確かな学び」 「豊かな心」 「健やかな体」 を育みながら自他ともに尊重し、自ら考え、行動できる子ども

令和6年度 重点目標
1.思考力・判断力・表現力を育む授業づくり 2.自分も他者も大切にする心の教育 3.心身ともに健康な子どもの育成

<p>「確かな学び」の現状 ・漢字の復習学習や計算力向上のために100マス計算に全学年で取り組んでいる。継続して取り組んできている成果もあり、多くの学年で目標を達成できている。より多くの児童に力がつくように継続して取り組んでいく必要がある。 ・対話をテーマに学校全体で研修に取り組んできた。学校教育アンケートや本校独自の対話に対するアンケート結果から対話についての意識の向上が見られた。本年度も対話をテーマとし、全校をあげて研修に取り組んでいきたい。</p>	<p>「豊かな心」の現状 ・自分を肯定的に捉えている児童の割合が80%を超えている。さらに、多くの児童が自尊感情・自己肯定感を高められるように取り組んでいきたい。 ・協調するという面では、互いに思いを譲り合ったり、相手の考えを受け入れたりすることに課題が見られる。友だちの良さにも目を向け、相手の気持ちを考えて行動する心も育てていきたい。 ・全体としては、落ち着いて過ごしている。(校内でのトラブルは減っている。授業態度もよくなっている) ・そうじは、がんばれている児童が多い。 ・自分からあいさつをする、ろうか歩行、トイレのスリッパをそろえることに、課題あり。 ・きまりを守るは、一部の児童に課題あり。</p>	<p>「健やかな体」の現状 昨年度実施のアンケートでは、8割以上の児童が、「外で遊ぶこと」「運動することが好き」「体育の授業が好き」といった項目のアンケートで肯定的な回答を得た。スポーツテストの結果に関しては、「反復横跳び」「立ち幅跳び」といった、瞬発系の種目で、堺市平均を上回っている。一方、「シャトルラン」(持久力)では、ほぼすべての学年で、堺市平均を下回り、学校としての課題となっている。 R4年度より、けんかつ(健康生活)アンケートを実施し、「姿勢に気を付けて生活していますか」の肯定的評価が低いと、啓発指導を実施したが、すぐには成果が出なかった(R4年度 58.2%→R5年度 58.5%)。本校の課題である睡眠は、継続的に指導を続けているが、習い事や家庭の都合などで成果が見られない。</p>
--	---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～7月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業で困らない計算力や漢字の書き取り力を身に着ける。(基礎学力の定着と向上) 思いや考えを表現できる。他者の思いや考えを聴くことができ、そこから自分の考えを深めることができる。(思考・判断・表現) GIGA スクール構想に基づき、ICT を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一日のどこかで5分間の百マス計算を行う。(習熟度にあわせて自分で筆算を書く形式などに移行していく。) 毎月本校独自の漢字チャレンジに取り組む。 2週に1回程度の作文指導を実施する。 年間を通じて「思考力・判断力・表現力の育成」「友だちとの対話」をテーマに教職員で研究する。 堺版授業スタンダード(問題解決型学習)を各教科で実施する。 高学年:調べ学習やプレゼンソフトを活用して自分の考えを表現する。 低学年:児童用PCを活用し、学習のふりかえりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 百マス計算(2学期末集計) <ul style="list-style-type: none"> 1・2年生…正答率9割達成を80%以上(最終実施時) 3～6年生…5分以内達成80%以上(ベストの記録) 本校の計算テスト3～6年生(2学期末実施)…正答率80%以上 漢字チャレンジ2～6年生(2学期末集計)…正答率80%以上 研修部会からの研究テーマに関する児童アンケート結果の向上。 児童用学校教育アンケート「思ったことや考えたことを文章にできる」「予想や考えなどをノートに書くことができる」…肯定的回答85%以上 高「児童用PCを使用して自分が調べたい情報を調べられますか?」低「ドリルパークに取り組んで習ったことの復習ができていますか?」…肯定的回答85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 100マス計算評価(2学期末) 計算テスト(2回平均) 漢字チャレンジ(2学期末) 学校教育アンケート 	3学期	○	<ul style="list-style-type: none"> 百マス計算、計算テスト、漢字チャレンジは2学期末集計(一学期は全校をあげて取り組むことができた。) PDCAサイクルシートを活用した各学年の研修への取り組みについてふりかえりを夏季研修時に実施。 全校をあげて、作文指導の充実に取り組んだ。夏季研修で指導のふりかえりを実施した。 5、6年生で研究授業および、事前事後討議会を実施。 児童アンケート、学校教育アンケートは2学期実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○百マス計算 達成【3年生たし算・ひき算・かけ算 4年生たし算・ひき算・かけ算・わり算 5年生 かけ算・わり算 6年生たし算・ひき算・かけ算・わり算】 未達成【1・2年生 たし算・ひき算 3年生わり算 5年生たし算・ひき算】 ○計算テスト 未達成【3年生 -4.6% 4年生 -7.7% 5年生 -30.5% 6年生 -6.7%】 ○漢字チャレンジ 達成【2年生・3年生・4年生・6年生】 未達成【5年生】 ○研修部会からの研究テーマに関する児童アンケート結果の向上 達成【質問項目の過半数以上でアンケート結果が向上した。】 ○児童用学校教育アンケート「思ったことや考えたことを文章にできる」「予想や考えなどをノートに書くことができる」…肯定的回答85%以上 → 達成【85%】 ○高「児童用PCを使用して自分が調べたい情報を調べられますか?」低「ドリルパークに取り組んで習ったことの復習ができていますか?」…肯定的回答85%以上 → 未達成【84.5%】 ○基礎学力の面で、計算力の部分に課題が見られた。漢字は概ね目標を達成することができた。作文指導や研修テーマに沿った取り組み、教育アンケートの質問項目に対する目標は概ね達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> △評価課題の数値や児童からのアンケートから客観的に子どもたちの姿をとらえていることは評価できる。 △数値だけに左右されず、継続して基礎学力の向上に取り組んでいただきたい。 △目標を下回っている項目に関しては、引き続き向上に向けた取り組みを続けていただきたい。 △ICT 機器を効果的な場面で使用して、活用できている。 △学力の向上には日々の取り組みや授業が大切。6年生の卒業コンサートの姿からも子どもたちの成長が伺える。今後も意義ある教育活動と学力向上につながる授業改善に期待する。
		<ul style="list-style-type: none"> 自分のよいところを見つけ、自尊感情・自己肯定感を高める。 異学年交流や学校行事などを通じて、一人ひとりが他者と積極的につながり、自他ともに良さを認め合い、集団としてなかよく活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを知る取り組み(1学期) ありのままの自分を認め、受け入れる。(心の成長アンケートを取り、学年始め・中間・学年末との変化を見る) なかまをつなぐ取り組み 学校全体で「なかまをつなぐ取り組み」をする。 なかまづくりの研修を行い、「目指す子ども像」を明確にして教職員の集団づくりへの意識を高め、実践を交流する。 学年・学級で行ったなかまづくりの取り組みから、児童が自分を意識して行動したかを実感するため、学期末ごとに心の成長アンケートを行って自分を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育アンケートの「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で肯定的回答80%以上 学校教育アンケートの「友だちの気持ちを考えて、行動している」の項目で肯定的回答80% 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育アンケート 	3学期	○	<ul style="list-style-type: none"> 「なかまをつなぐ取り組み」:『ハッピースマイル八田荘』(放送委員会)の計画・実施 →代表委員会のスローガン「みんなできまりを守り、笑顔あふれる学校」をもとに、発案。全校から友だちとの関わりでの良いエピソードを募集し、放送する。 なかまづくり研修(夏季研修)を実施:教職員の集団づくりの意識を高め、学級活動での実践事例を共有・模擬実践に取り組んだ。 心の成長アンケートを実施:①自分の良いところを知っている ②友だちの気持ちを考えて行動している どちらも80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育アンケート結果(肯定的回答) 「自分には良いところがあると思いますか」:87.5%(低92% 高83%) 「友だちの気持ちを考えて行動している」:92%(低89% 高95%) ○心の成長アンケート結果(肯定的回答) 同項目いずれも80%以上 ○学校行事や縦割り活動、日々の学習・学校生活の中で役割を持ち、やり遂げた達成感や友だちに助けられてこと、「ありがとう」の言葉をかけられたことなどの経験が自己肯定感の高まりや思いやる心を豊かにしていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個性と集団のバランスを考えながらの教育活動は難しいことではあるが、人権教育を中心に、子どもたちのより良い関係づくりを行い、アンケートでも肯定的回答が多かったことは評価できる。 ○子どもの一番近くのモデルは先生なので、先生が率先して人としてのより良い姿を見せていただきたい。

	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">規範意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで、あいさつができる。 ・ろうかを歩くことができる。 ・トイレのスリッパをそろえることができる。 ・先生がいない時でも学校のきまりを守って、過ごすことができる。 ・話をしっかり聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハテナボーイの朝の会での毎日チェック ・朝礼での生指からの講話 → 担任からの講話 ・学校外での遊び方の指導を下校時間が早い日に全クラスで行う (統一した指導のために、指針を示す) ・週1回の月目標のチェックと月1回の振り返りを丁寧に行う ・委員会活動と連携した取り組み (特に、あいさつ、廊下歩行、スリッパ) ・生指部会からのポジティブな取り組み(あいさつ、スリッパ) ・中間アンケートを活用して、後期目標の設定 ・職員への啓発と職員が見本となる姿を見せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「学校のきまりを守っている」の項目で肯定的評価80%以上 ・学校教育アンケートの「あいさつをよくしている」の項目で肯定的評価80%以上 ・学校教育アンケートの「掃除を一生懸命している」の項目で肯定的評価80%以上 	<p style="text-align: center;">学校教育アンケート</p>	<p style="text-align: center;">3学期</p>	<p style="text-align: center;">△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標(年間・学期・月別)は、これまで通り朝礼での啓発や各学級での週ごとの振り返りを行い、児童一人ひとりが意識して取り組めている。 ・週ごとのふりかえりから、高学年児童が、手本として頑張ろうという意識がもてている。 ・教室から出てしまう児童が複数名いたが、それぞれに合った対応ができてきて、落ち着いてきている。 ・いじめ対策委員会と会議での情報共有は実施できている。 <p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間前後の廊下歩行 ・トイレのスリッパをそろえる ・あいさつはいい声でできているが、自分からできる児童はまだ少ない。 ・染髪している児童の増加、低年齢化が進んでいる 	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育アンケートの結果(肯定的回答の%) ・学校のきまりを守っている(児童)88.5% ・あいさつをよくしている(児童)86.5% ・掃除を一生懸命している(児童)95% 以上から評価は○ ・週ごとのふりかえりからも、月別目標への児童の向きな意識は見られる。 ・学校は子どもの間違っただけを指導してくれる(保護者)95% <p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はテナボーイのチェックは毎朝徹底して続けることと、工夫が必要。子どもによって、クラスによって変わるものではなく、毎日させていくことでシステム化させていく。 ・トイレのスリッパは場所によって差が出ている。ずれているスリッパを見たら直す習慣をつけるため、職員が見本となる姿を見せる。 	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> 「職員が見本となる姿を見せる」はその通りである。児童のアンケートの項目にある「きまりを守る」「あいさつをする」「掃除を一生懸命にする」など、先生がその姿を見せることが、子どもたちの規範意識を高める一番の取り組みである。 ・座ってする勉強だけではない、心の学びを子どもたちにしてあげていただきたい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健やかな体</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「体を動かすことが楽しい」「体育の授業が好きだ」という児童をさらに増やす。 ・体力向上の取り組みに参加しようとする児童を増やす。(昨年度は3割程度の参加) ・スポーツテストの記録において、平均記録を伸ばす。(特に持久力を伸ばしたい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業を円滑に行うために、年間計画を見直し、同種目を同じ時期に設定することで、準備時間の短縮につなげ、児童の活動時間を長く確保できるようにする。 ・授業改善を行い、体育の授業での運動量を確保する。 ・体育の授業での目標を自己の成長や友達の成長などに向け、各自が課題をもてるようにして、工夫をする楽しさや達成感を味わうことで、体育が好きな児童を増やす。 ・体育委員会を中心とした、体力向上の取り組み(スポーツテスト練習、八田荘チャレンジ、リズム縄とび等)へ参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「外で元気に遊んだり、体育の授業で体を動かしたりすることが好きだ」の項目で肯定的評価が85%以上。 ・けんかつアンケートの「体育の授業が好きですか」「運動することは好きですか」の項目で肯定的評価がそれぞれ85%以上。 ・スポーツテストの記録向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテスト ・学校教育アンケート 	<p style="text-align: center;">3学期</p>	<p style="text-align: center;">△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会を中心に、スポーツテスト練習を行った。また、八田荘チャレンジとして新たな体力向上に向けての取り組みを企画中。2学期実施予定。 ・けんかつアンケートは未実施(11月実施予定) <p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛暑もあり、休み時間に外で遊ぶ児童の増加ははかれなかった。 	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> リズム縄跳び、大縄跳び(八の字跳び)を行い体力向上に取り組んだ。大縄跳びの参加率は全体の3割近くの参加者だった。(八田荘チャレンジ②短縄跳びは2月に実施予定) 初任者教員を対象に体育の授業づくり研修を行い、学校としての体育授業力向上に努めた。 けんかつアンケートでは「体育の授業が好きですか」の項目で85.9%、「運動することは好きですか」の項目で87.1%の肯定的回答が見られた。 学校教育アンケートの「外で元気に遊んだり、体育の授業で体を動かしたりすることが好きだ」の項目で87.6%の肯定的回答が見られた。 スポーツテストは『立ち幅とび』の記録において多くの学年が堺市平均(R5年度)を上回ったが、『50m走』『握力』において多くの学年が堺市平均を下回っており、課題が見られた。 	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業だけでなく、休み時間を使った様々な取り組みが、運動好きな子どもたちを育てていることは評価できる。 ・日中、校庭を覗くと、寒い冬や休み時間も多くの児童が運動場に出ており、外遊びをしていることから、運動を好んでいることがうかがえる。 ・学力同様、課題のある点には真摯に向き合い、改善・解決に向けて尽力してほしい。
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健康の維持・増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の姿勢に意識を向けて生活のできる児童 ・早寝を意識することのできる児童 ・1日3度の栄養バランスのとれた食事が大切だと思う児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康生活目標の周知(姿勢については毎回触れる) 朝礼で保体給からの講話→担任からの講話 ・けんかつ(健康生活)アンケートを年1回(11月)実施して、実態を把握する ・発達段階に応じた目標睡眠時間の周知・指導を継続的に実施する ・「心身の健康」に関する食に関する指導を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「早寝早起き朝ごはん…」の項目で肯定的評価 児童用80%保護者用90%以上 ・けんかつアンケートで肯定的評価 睡眠(学校があった日…寝…)70%以上 姿勢60%以上 朝ごはん…80%以上 苦手なものが…75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケート ・けんかつアンケート 	<p style="text-align: center;">3学期</p>	<p style="text-align: center;">△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の朝礼にて健康生活目標(姿勢については毎回)の周知を継続中。 ・けんかつアンケートは未実施(11月に実施予定) ・給食時間の放送やほけんだよりで、発達段階に応じた目標睡眠時間の周知を継続中。 ・6年生に食育アプリを活用した朝食指導(心身の健康)を実施。 	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育アンケートの結果(肯定的回答) ・早寝早起き朝ごはん(児童用)84.5% ○ (保護者用)睡眠97%、朝食100% ○ けんかつアンケートの結果(肯定的回答) ・学校があった日は何時までに寝ますか…71% ○ ・姿勢に気を付けて生活していますか…55.7% △ ・朝ごはんの3つのスイッチがわかりますか…86.1% ○ ・苦手なものが給食に出たとき、どうしていますか…85.1% ○ 全体をふりかえって ・1年間を見直し、計画的に朝食に関する指導(心身の健康)を実施できた。 ・けんかつアンケートからは、毎月のけんかつ目標指導の効果を図ることはできないが、継続的な指導と、あわせて担任による講和、日常的な指導が必要。 ・保健委員会活動での姿勢啓発(せすじいー)では、インパクトはあるが、「せすじいー＝姿勢に意識する」とまではいかなかったため、今後も継続的な啓発指導が必要。 	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共働きの当たり前になる今、朝ご飯の喫食や睡眠時間を学校だけで指導することは難しくなっている。それぞれのライフスタイルに合わせた子どもの健康増進を考えてほしい。 ・けんかつアンケートでの肯定的な意見は、栄養教諭が様々な食に関する指導を行っていることが結果につながっている。 ・姿勢についての取り組みは、アンケートでの結果は達成できなかったものの、キャラクターを作るなど、啓発していることは評価できる。一方的な指導だけでなく、子どもと一緒に目標達成をめざしてほしい。

校長より（年度末）

全教職員が同じ方向を向いて学校教育目標を意識した教育活動を行っている成果が表れていることに喜びを感じる。子どもたちによる各児童委員会の活動も本学校力向上プランと連携し、「集団づくり」や「規範意識の向上」「体力向上」の意識の醸成につながり、子どもたちの自己有用感や自尊感情の高まりに寄与している。また、保健委員会の子どもたちが考えたキャラクター「せすじい」の取組は、課題であるよい姿勢保持の意識向上にのため今後の継続も期待している。基礎学力面での課題に対しては校内での取組はもちろん、家庭学習や自主的な学習への働きかけも継続していきたい。今後も、様々な場面において、学校と家庭、そして地域が連携した教育活動の推進を図っていきたい。

学校関係者評価者から（年度末）

今年度の目標を客観的に振り返っており、学校の取組の成果もあらわれているといえる。特に、集団作りに関する取組みや体力・健康に関する取組はアンケート結果を見ても成果としてあらわれている。しかし、まだ課題も残されており、学校はさまざまな取組を継続し、より一層深めるとともに家庭、地域と連携し、子どもの健全な育成に努めてもらいたい。